

昔話で責めてくる地域住民



「おれたちの時代はな、もっと我慢したもんだ。今の子どもや親は甘えとる。学校も地域も、少し気を遣いすぎじゃないか。」

Card 01

時代比較の壁

翻訳の視点と「ヒント」

否定や説得から入らず、昔の経験や誇りを受け止め、今の子どもたちに合う関わり方へつなげる。



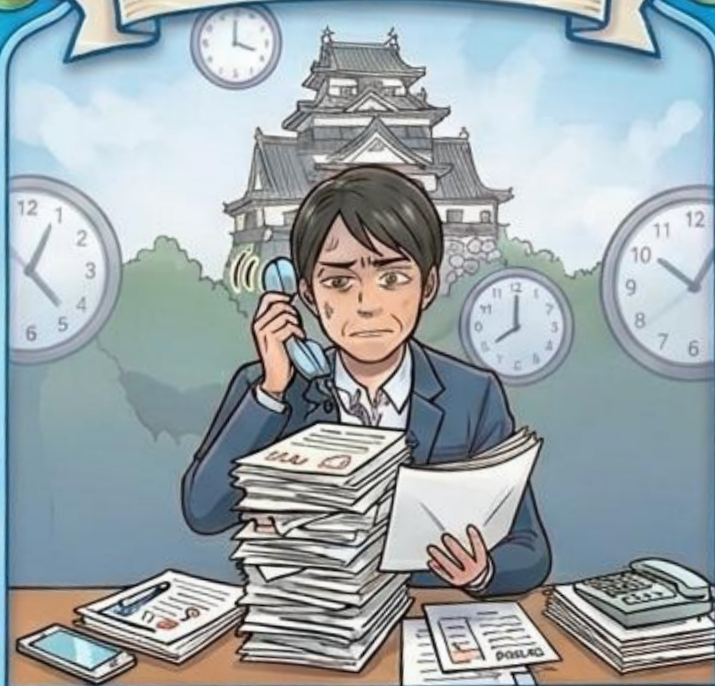
「昔の地域には、子どもをみんなで育てる力があつたんですね。その経験は、今の子どもたちにもきっと必要です。」

ただ、今は子どもを取り巻く環境も変わっています。昔の知恵を、今の子どもに届く形で一緒に生かせませんか。」

Magic Phrase

Card 01

余白ゼロの先生



「やりたい気持ちはありますが、正直、これ以上仕事を増やせません。」

Card 02
多忙の壁

翻訳の視点と「ヒント」

学校に“お願い”する前に、地域が担える準備・連絡・当日運営を先に示す。



「先生方に新しい仕事をお願いしたいのではありません。準備や調整は地域側で担います。先生には、子どもたちの変化を見取るところだけ、一緒に関わっていただけませんか？」

Magic Phrase

Card 02

負担を警戒する保護者



「地域と一緒にやるのはいいと思います。でも、結局、保護者の手伝いや役員の仕事が増えるんじゃないですか。」

Card 03

巻き込まれ不安の壁

翻訳の視点と「ヒント」

全員参加を前提にせず、できる人が、できる時に、できる形で関われる仕組みを示す。



「ご負担を心配されるのは当然だと思います。この活動は、保護者の仕事を増やすためのものではありません。

できる人が、できる時に、できる形で関われるようにし、無理なく子どもたちを支える仕組みにしていきます。」

Magic Phrase

Card 03

変化を警戒する地域住民



「今までそんなことはやってこなかった。急に新しいことを始めても、地域はついていけない。誰が決めたんですか。」

Card 04
前例なしの壁

翻訳の視点と「ヒント」

決定事項として押しつけず、地域の歴史やこれまでのやり方を尊重しながら、一緒に考える余地をつくる。



「急に变えるように感じられたなら、申し訳ありません。これまで地域で大切にしていたことを踏まえながら、子どもたちのために、今できる形を一緒に考えていただきたいと思います。決めたことをお願いするのではなく、まずはご意見を聞かせてください。」

Magic Phrase

Card 04

慎重な校長



「万が一、事故が起きたらどうするんですか。責任の所在がはっきりしないと進められません。」

Card 05
安全の壁

翻訳の視点と「ヒント」

不安を否定せず、役割分担・見守り体制・緊急時対応を具体化する。



「安全面が心配なのは当然だと思います。だからこそ、役割分担と緊急時の動きを先に整理します。学校だけで抱えるのではなく、地域目も加えた安全な形を一緒につくれませんか？」

Magic Phrase

Card 05

冷めた生徒



「面倒くさい。
それやって何の意味があるの？
内申点が上がるならやるけど。」

Card 06
無関心の壁

翻訳の視点と「ヒント」

正しさを語る前に、生徒の好きなことや
日常、小さな違和感と地域をつなげる。



「そっか。今はあまりピンとこないよね。でも、
好きなこととか、ちょっと気になることからで
いいよ。“地域のために頑張る”じゃなくて、
まずは自分の毎日が少しおもしろくなる入口
を、一緒に探してみよう。」

Magic Phrase
Card 06

支援に疲れた地域の先輩

うあ…

「また学校のお手伝いか。若い親は何もしないのに、俺たちばかりこき使われるのはごめんだ。」

Card 07
疲弊の壁

翻訳の視点と「ヒント」

地域の不満を否定せず、高齢者だけに頼らない仕組みと特技やつながりが生まれる関わり方を示す。



「そう感じられるのは当然だと思います。これまで一部の地域の方に頼りすぎていた面がありました。今回は“学校のお手伝い”ではなく、皆さんの得意なことや経験が生きる出番とし、子どもや保護者ともつながれる形を一緒につくりたいんです。」

Magic Phrase

Card 07

効率重視の先生



「限られた授業時数の中で、わざわざ地域と組む必要がありますか。教科書で進めた方が効率的だと思います。」

Card 08
教科の壁

翻訳の視点と「ヒント」

学校と地域で共有する“目指す子ども像”の実現に向けて、この活動がどんな力を育てるのかを説明する。



「この活動は、教科書の学びを外に広げるためのものです。学校と地域で共有している“目指す子ども像”の実現に向けて、子どもたちが本物に触れ、自分で考え、伝える力を育てる機会として、教科の学びとつなげて考えられませんか。」

Magic Phrase

Card 08

心配が止まらない保護者



「地域の方と関わるのは大切だと思います。でも、アレルギー対策は大丈夫ですか。怪我があったら、どうしてくれるんですか。」



Card 09
不安の壁

翻訳の視点と「ヒント」

リスクを否定せず、安心材料が見える形にする。その上で、子どもが人と関わり、困った時に助けを求められる力を育む。



「心配はごもっともです。アレルギーや怪我への対応、緊急時の連絡体制が見える形でお伝えします。リスクを避けるだけでなく、子どもたちが地域の人と関わりながら、困った時に助けを求める力や、しなやかに生き抜く力を育てる機会にしていきます。」

Magic Phrase

Card 09

前例を気にする行政担当者



「趣旨は分かります。ただ、所管がまたがるので調整が難しいです。前例もないですし、予算上もすぐには対応できません。」

Card 10
縦割りの壁

翻訳の視点と「ヒント」

制度や予算の制約を否定せず、目的を共有し、小さく試せる範囲や関係課との接点を探る。



「制度上の難しさがあることは分かります。だからこそ、まずは子どもたちにとって何が必要かを共有したいです。大きな予算や新制度でなくても、今ある事業や関係課との接点を生かして、小さく始められる形を一緒に探せませんか。」

Magic Phrase

Card 10